

～目次～

【1】TKK 活動

- ・2022 年度 TKK 主催:医療及び家族相談会
- ・2022 年度 ZOOM ウェビナー 実践的アプローチ講習会
- ・2022 年度東京都への予算要望書
- ・「失語症者向け意思疎通支援事業」についての活動

【2】加盟団体の活動

- ・みなと高次脳
- ・ハイリハ東京
- ・ハイリハキッズ
- ・高次脳機能障害者と家族の会
- ・杉並クローバー
- ・サークルエコー
- ・世田谷高次脳機能障害連絡協議会

【3】行政、他団体の活動

- ・北多摩南部・区西南部高次脳機能障害支援センター普及事業
- ・令和 4 年度 港区高次脳機能理解促進事業研修会
- ・第 15 回目黒区高次脳機能障害支援セミナー
- ・2022 年度日本高次脳機能障害友の会オンライン全国大会
- ・第 25 回 なるほど! なっとく!! 高次脳機能障害 テーマ「繋ぐ」
- ・アメニティーフォーラム 26 開催
- ・関東圏 高次脳機能障害 ピアサポーター準備研修会
- ・その他のご案内

・東京都への予算要望書

— 各記事の前の ●は活動報告、○は今後の予定 表題の< >はシリーズ開催です —

【1】TKK活動

\* \*

あけましておめでとうございます。

昨年は新体制になりコロナ禍での制限のある中、決めた事業を実施すべく慌ただしく過ぎました。今年度の残りの予定事業に向け、また新年度の活動については、みなさまのご協力とご支援を引き続きお願いいたします。

理事長 今井雅子

### <2022 年度 TKK 主催：医療及び家族相談会>

2023 年 1/29、2/26、【会場 A】東京慈恵会医科大学付属第三病院 2 階会議室（東京都狛江市本町 4-11-1）

・いずれも日曜日の 13:30～16:30

・各回とも先着順に3組まで受付、1組につき1時間ご相談に応じます。

お申込み等詳しくは下記から

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=247](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=247)

### <2022 年度 ZOOM ウェビナー 実践的アプローチ講習会> 日本損害保険協会助成リハビリテーション講習会事業

第 1 回 2022 年 11 月 20 日(日)

- ・山口 研一郎 氏 『「高次脳機能障害支援法」成立の必要性』
- ・内山 量史 氏 『失語症のある方のリハビリテーションと地域支援』
- ・武原 格 氏 『脳に障害を負った後の、自動車運転再開の手順』

==== 今年度もコロナ禍で ZOOM ウェビナーで実施しました。279 名の参加がありました。有難うございました。当事者やご家族の中には ZOOM 参加が出来ない方々もいらっしゃるの、実験的に加盟団体の方々に映写会の同時開催を行いました。3名の参加者からは「助かりました。」「良かったです。」の感想を頂きました。

==== 理事長 今井 雅子

====『高次脳機能障害支援法』成立の必要性』は、大変重要なテーマとして注目されています。家族支援、親亡き後の問題、治療とリハビリテーション、本人を支える経済的基盤と制度など、医療、福祉の現場では未整備な課題が多くあります。それら一つ一つを丁寧に伝えてくださった内容だと感じました。

続いての『失語症のある方のリハビリテーションと地域支援』では、失語症という言葉は知っていても様々な症状があることは多くの人が案外知りません。一括りにできない個々への対応を含め、多くの資料をご提示されながら制度へも言及していただき色々な角度からの内容に学びがありました。

『脳に障害を負った後の、自動車運転再開の手順』では、診断書に直接関わっていらっしゃる専門家の視点で講演され、具体的に対応の基準を知ることができました。不安がらず、きちんとした知識で判断できることが再開への一歩になると気付きました。

今回も専門家の方々からの話は示唆に富み、今後の支援や、現状の中での運営に上手く活用できたらと願わずにいられません。

====メルマガ編集担当 高井玲子

第 2 回 2023 年 2 月 19 日(日)

- ・又村 あおい 氏 『高次脳機能障害支援法(仮称)を実現するために』
- ・中島 友加 氏 『子どもの高次脳機能障害の理解と支援について』
- ・赤木 陽子 氏 『高次脳機能障害のある子どもへの復学支援について』

第 2 回のお申込み等詳しくは下記から

[http://www.brain-tkk.com/index/show\\_information.php?boardAct=view&readNum=249](http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=249)

お申込は専用フォームのみで受け付けます

<https://forms.gle/yYeNQA7KjQGwgHLg9>

＊ ＊ ご注意ください： 2023 年 2/19 の申し込み期間：1/28(土)10 時～2/6(月)17 時 ＊ ＊

### <2022年度 東京都への予算要望書>

今年は大きなテーマ3点を提出しました。

1. 「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」での養成者が活動できる仕組みを再検討して頂きたい。  
＊ 東京都における支援事業がなかなか進まずにいる課題を上げ、全域実施に向け再検討を要望
2. 家族介護者の高齢化にともなうサポート体制の充実を協働したい。  
＊ 高次脳機能障害者に関らず大きなテーマであることを訴え、制度、機関、関係者などと共に構築していきたいと訴える。
3. 実態調査の必要性について  
＊ 前回調査から15年経ち、状況も変わってきているので再調査を要望

### <「失語症者向け意思疎通支援事業」についての活動>

1. 11 月 13 日(日)一般社団法人東京都言語聴覚士会が開催する令和 4 年度意見交換会に正副理事長3名がオブザーバー参加しました。東京都における「令和 4 年度失語症者向け意思疎通支援モデル事業」の活動紹介や失語症のある当事者5名の話、日本失語症協会からの要望が出されました。
2. 日本失語症協会の園田さんたちと、15 日に都庁の派遣担当者との意見交換に正副理事長3名が参加しました。

---

## 【2】加盟団体等の活動

＊ ＊

### みなと高次脳

#### ● 『「みなと高次脳」発足 10 年を迎えて』

＝＝＝＝＝ 港区主催 TKK 事業委託の「高次脳機能障害理解促進事業」の講演会に参加したことがきっかけで、翌年、当事者家族 6 世帯と支援員 1 名が集まり 2012(平成 24)年 3 月に「みなと高次脳」が発足しました。

そして今年 2022 年 10 月 1 日に『みなと高次脳発足 10 周年記念の集まり』を港区立障害保健福祉センターにて開催しました。

東京慈恵会医科大学附属病院・リハビリテーション科・羽田拓也医局長の記念講演「高次脳機能障害者の生活と社会参加」と、3 名の当事者による発表という 3 時間の集まりでした。

当事者達の話は、失語を発症しながらも小児～成人～そして定年を間近にしながら乗り越えてきた人生を振り返った文章を綴った発表、趣味である鉄道旅行の記念の写真をパワーポイントに落とし込み思い出を語った発表、支援される当事者だけではなく支援する側になろうと社会復帰までの回復への道の動画制作をして社会貢献をしましょうと呼び掛けた発表と、それぞれの個性が光るアツという間の 60 分でした。

発表した方達は準備に時間が掛かったと思いますが、それ以外にも会員の当事者の方々が裏方に回ってデジタル担当としてメールで情報をやり取りしたり、前もって会場見学と打ち合わせをしたりと色々動いてくれました。郵便発送にも当事者会参加者が協力してくれました。2021 年に「みなと高次脳」の中に「当事者会」ができたことで当事者達の交流が深まり、

それぞれの能力が視えたことで発表へ裏方へと力(ちから)が発揮されたと思います。

開催日に参加して下さった某家族会の代表の方から「皆さん仲が良いですね。羨ましい」とメールを頂いた時は、改めて自分の会を知った瞬間でした。

コロナ禍でしたが無事終了しました。当日、ご都合を付けてくださって会場に集まってくださった皆様、お一人お一人に御礼を申し上げたい気持ちで一杯です。

本当に有難うございました。

これからも「みなと高次脳」の活動にご注目頂きますと嬉しいです。

==== みなと高次脳 代表 高井玲子

○活動予定は「コージノウ cafe」2月25日(土)参加費無料。会員以外も参加可能。

詳細はHPで <https://yykoujinou.com/>

### ハイリハ東京

○活動予定 令和5年1/28(土)、3/25(土) いずれも都内会場にて定例会

### ハイリハキッズ

○活動予定 定例会1月15日(日)、詳細はHPで

[2023年1月定例会のご案内 \(hirehakids.wixsite.com\)](https://hirehakids.wixsite.com/)

### 高次脳機能障害者と家族の会

○活動予定

「はとバス東京観光&懇談会」1/15(日)12:30~17:00 集合場所:12:30に東京駅丸の内南口改札付近

参加費:2500円 \* 障害者手帳お持ちの方は持参。

◇申し込み:各参加者氏名、連絡先記入 締切:1/10

◇申し込み先:Fax 03-3200-8970 メール:[koujinou\\_kazokukai@yahoo.co.jp](mailto:koujinou_kazokukai@yahoo.co.jp)

当日連絡先:090-8036-8606 または 090-9204-2521

### 杉並クローバー

●『「杉並クローバー」設立10周年記念講演会』10/15

====10月15日に開催しました杉並高次脳機能障害者家族会クローバーの発足10周年記念講演会を阿佐ヶ谷区民センターに於いて無事に終えることが出来ました。

実行員3名(佐藤ひとみ・小澤京子 松枝抄子)で半年前から準備をして開催に至りました。当初の予定ではZOOM併用で60名くらいの参加を見込んでいましたが、当日は約100名近い参加者があり盛大に執り行われた次第です。10年は長いようでもありますが、あっという間に過ぎた時間です。沈みかえていた当事者や家族が10年経って笑顔になっているのを見ると協力して良かったと感じております。

ご講演いただいた島津渡様と齋藤聡様のお話も好評を頂きました。また杉並区の助成と杉並区障害者団体連合会の助成をもとに10周年の記念誌を作成しました。

今後も高次脳機能障害者が住みやすい地域を目指して微弱ながら頑張ってお活動を続けてまいります。

皆様のご活躍をお祈りするとともに当事者・家族にご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

==== 杉並高次脳機能障害者家族会クローバー 副代表 小澤京子

## ○活動予定

いずれの企画も、新型コロナウイルスの感染状況によっては、中止にする可能性があります。

1)と5)の

◇問い合わせは：03-3247-3242 当日連絡先:090-9204-2521

◇申し込みは：Tel/Fax:03-6383-1403、メール：[chieko-miltncampos216@docomo.ne.jp](mailto:chieko-miltncampos216@docomo.ne.jp)

### 1)勉強会「障害者の保険、お金の管理について」

1/21(土)13:00~15:00 高井戸地域区民センター(高井戸東3-7-5)3階 第9集会室

◇締め切り:1/20

### 2)カフェクローバー(家族や支援者の会)1/7(土)、2/4(土)、3/4(土)、13:00~16:00 荻窪豊栄ステーションプラザ 407 室

お話ししましょう。昼食は済ませてきてください。参加費:100円

◇申し込み:03-3247-3242 ◇当日連絡先:03-6339-7722

### 3)当事者会 1/28(土)13:00~15:00 高井戸地域区民センター 3階 第9集会室

ご都合に合わせて開催時間内で好きな時間に参加してください。参加費:100円

◇問い合わせ;[tbi.we.contact@gmail.com](mailto:tbi.we.contact@gmail.com)

### 4)家族交流会 2/18(土) 13:30~15:30 クローバー会 15:45~16:30 杉並区障害者福祉会館(高井戸東4-10-5)

懇談会、相談、意見交換など

◇申し込み、問い合わせ:「障害者生活支援地域生活支援担当」03-3332-1817 事前申し込み必要

### 5)新宿御苑散策 3/18(土)14:00~16:00 集合場所:新宿御苑大木戸門前

メトロ丸の内線「新宿御苑前」駅より徒歩5分。JR、京王線、小田急線「新宿」駅南口より徒歩10分

◇締め切り:3/17

## サークルエコー

●『みらくル TV 高次脳機能障害特番「居場所のあり方・つくり方」を開催して』11/13

====先日ご案内した「みらくル TV 高次脳機能障害特番」をご覧になられたでしょうか。調布市の「しばさき彩ステーション」という集いの場の事例である。ご覧になられていない方は YouTube アップしているので、ご確認いただきたい。

(<https://www.youtube.com/watch?v=jotSJydMnoE>)

番組をご覧になられた方はいろいろなお考えをお持ちかと思う。重要なのは、地域共生社会をにらんだ家族会のあり方であると思う。とかく家族会は内部活動中心。外部と言ってもセミナーに参加したり同じ障害を抱えた方々との交流である。

このことを否定するものではないが、国を挙げての地域共生社会という取り組みの中で、家族会はもっと地域と交わり合い、福祉一辺倒型から地域社会型へとコミュニケーション環境を変えていくことも必要ではないか。

当然、簡単にはいかないだろう。しかしそこに正解はない。智慧と創意工夫の中から「新しい家族会」のあり方を考えてはどうだろうか。その一つの仮説を「しばさき彩ステーション」の事例は示してくれたように思う。

==== サークルエコー代表 玉木和彦

## ○活動予定

1) 家族・支援者のための「支援のシナリオ」づくり(サポートカード)の note へのアップ完了

<https://note.com/tamazura/m/m49ff937a5625>

2) みらくる TV 高次脳機能障害特番サポート(毎月第二日曜 14:30-16:00)

<https://us02web.zoom.us/j/3782787584> パスコード「39」

番組の予定

1月: 藤田医科大学 鈴木めぐみ先生 「高次脳機能障害当事者・家族介護者の QOL 及び介護負担(仮)」

2月: 1月の鈴木みどり先生のお話を受けてのミニシンポジウム

3月: バリアフリーアクセサリーの案内

4月・5月: 上田敏先生 「高次脳機能障害と ICF(国際生活機能分類)(仮)」

3) 会員のための集まり: web 集いの場 毎月第二月曜 13:00-15:00

#### 世田谷高次脳機能障害連絡協議会

○春の音コンサート 2023

2月5日(日)13:00~15:30(12:30 開場)

世田谷区立保健医療福祉総合プラザ 1F ふれあいカフェ うめとびあ  
カフェのコーナーを借りた新しい場での久しぶりの開催です。

◇問い合わせ・申し込み [sekouren@gmail.com](mailto:sekouren@gmail.com) 090-3518-3876

---

### 【3】行政、他団体の活動

\* \*

---

○北多摩南部・区西南部共催 高次脳機能障害支援センター普及事業

「高次脳機能障害と地域支援」1/18(水) 18:30~20:00 リモート配信

・講師 : 渡邊修氏 (東京慈恵医科大学第三病院 リハビリテーション科教授)

◇申し込み締め切り: 1/17(水)

申し込み方法等詳しくは下記から

[https://tm-seinanbu.com/supportcenter/wp-content/uploads/2022/03/2022\\_10\\_19.pdf](https://tm-seinanbu.com/supportcenter/wp-content/uploads/2022/03/2022_10_19.pdf)

○令和4年度 港区高次脳機能理解促進事業研修会

(1) 「当事者・家族の心理」 1/20(金) 18:30~20:00 申し込み締切: 1/19(木)

(2) 「支援困難事例について」 2/3(金) 18:30~20:00 申し込み締切: 2/2(木)

・講師 : 山口加代子氏 (公認心理師・臨床心理士)

申し込み方法等詳しくは下記から

<https://www.city.minato.tokyo.jp/kouhou/event/230120-kojinokinoshogairikai.html>

○第15回目黒区高次脳機能障害支援セミナー

「小児の高次脳機能障害支援」～発達障害との共通点・相違点と成人後の問題～

・講師:橋本圭司氏(昭和大学医学部 リハビリテーション医学講座 准教授) YouTubeによるオンライン  
動画配信期間:R5年1月23日(月)10:00~2月12日(日)17:00(期間中何度でも視聴可能)

◇申し込み締め切り:1/13(金)

申し込み方法等詳しくは下記から

[https://www.ikiikifukushi.jp/0015\\_kkss/](https://www.ikiikifukushi.jp/0015_kkss/)

## ○2022年度日本高次脳機能障害友の会オンライン全国大会

2023年1月15日(日)9:30~14:30

第1部 シンポジウム「高次脳機能障害支援法制定に向けて」

- ・深津 玲子 氏 「高次脳機能障害支援 現状と課題」
- ・渡邊 修 氏 「医療の立場から」
- ・加藤 俊宏 氏 「支援者の立場から」
- ・片岡 保憲 氏 「友の会の立場から」
- ・中村 千穂 氏 「小児の家族会の立場から」

第2部 各地の家族会 活動紹介

お申し込み等詳しくは下記から

[https://npo-biaj.sakura.ne.jp/top/wp-content/uploads/2022/12/2022\\_online\\_zenkoku.pdf](https://npo-biaj.sakura.ne.jp/top/wp-content/uploads/2022/12/2022_online_zenkoku.pdf)

## ○第25回 なるほど!なっとく!! 高次脳機能障害 テーマ「繋ぐ」

主催:特定非営利活動法人高次脳機能障害者支援「笑い太鼓」

すでにオンデマンド配信が始まっていますが、ご紹介します。

12月25日からのオンデマンド配信では、片桐先生、瀧澤先生にフォームから質問ができます。

質問には、2023年1月20日(金)16:00~17:00にZoomウェビナーで開催するライブ配信Q&Aで回答します。

・オンデマンド配信:令和4年12月25日(日)~令和5年1月31日(火)

第1部「高次脳機能障害について」講師 片桐伯真氏

第2部「支援の輪を広げる」講師 瀧澤学氏

第3部「座談」現場支援従事者が思いを語り合う~円滑な多機能連携のために~

・Q&Aライブ配信

令和5年1月20日(金)16:00~17:00

「講師に質問してみよう」

/オンラインシステム問い合わせ(株)ユピア TEL 052-872-8101(平日 10-16時) FAX 050-3737-7331

Mail [seminar@yupia.net](mailto:seminar@yupia.net)

参加費:当事者・当事者家族:無料 学生:500円 その他の方:1,000円

◇申込締切 令和5年1月24日(火)

お申し込み等詳しくは下記から

<https://waraidaiko.yupia.net>

## ○アメニティーフォーラム 26 開催 主催者:アメニティーフォーラム実行委員会

DPI 日本会議も実行委員会に参加しております。

2023 年 2/10(金)13:00~2/12(日)16:00 びわ湖大津プリンスホテル コンベンションホール淡海

定員:500 参加費:15000 円 申し込み締切:2/6(月) 23:59

お申し込み等詳しくは下記から

<https://www.dpi-japan.org/blog/events/amenity-forum26/>

\* DPI 日本会議は、DPI の日本国内組織として、1986 年に発足しました。(多くのお問い合わせを頂きますが「日本会議」とは関りが無く、別団体になります)身体障害、知的障害、精神障害、難病等の障害種別を超えた 92 団体が加盟しています(2022 年 8 月現在)。地域の声を集め、国の施策へ反映させ、また国の施策を地域へ届ける事。

それが DPI 日本会議の活動の鍵となっています。

## ○関東圏 高次脳機能障害 ピアサポーター準備研修会

2023 年 1 月 29 日(日)13:30~15:30 TKP 東京駅カンファレンスルーム 10 階 B 東京都中央区八重洲 1-8-16

対象:ピアサポートに関心のある当事者の方 またはピアサポーターとして雇用すること、関心のある支援者の方。

参加費無料

内容:「ピアサポーターとは?」(長谷川幹氏)、グループワーク「話そう・聞こう」(山口加代子氏+当事者)

◇申し込み締切:1 月 20 日

◇申し込み連絡先:山口加代子 [kymgt128@gmail.com](mailto:kymgt128@gmail.com) もしくは FAX03-3943-0415

申込みの際:参加者のお立場・住所・連絡先・アドレス・ピアサポーター活動をされている場合は会の名称もお知らせください。

ご質問も遠慮なくお問い合わせください。

主催:長谷川幹(世田谷公園前クリニック)

## ○本の紹介 『推しは目覚めないダンナ様です』(幻冬舎コミックス発行)

====ダンナ様(ぼくちん)をこよなく愛し、推し続ける妻(そら)が書いたコミック本です。そらさんの趣味はダンナ様のお世話をすること。低酸素脳症で遷延性意識障害と診断されてからの入院生活、あふれるほどの愛情と同時に多くの不安・焦燥感がリアルに描かれています。

結婚 15 年目のある日、思いもかけぬ魔の触手。重度の中途障害は、一瞬にしてそれまでの日常を吹き飛ばし、私たちが共有した出発点です。そらさんが病院のベッドで呼びかけ音楽を聴き、手を握りしめリハを毎日のように行ってきたのは、私たちにとっても追体験できることです。

しかし、この間のコロナ禍による(接触不可)面会禁止 1 年以上という事態は、そらさんも書いておりますが、患者家族の精神的苦悩を計り知れないほど大きくなりました。おふたりへのエールを込めて、皆様へご一読をお勧めいたします。尚、医療監修は、慈恵第三の渡邊修先生です。随所に「一言」のご意見があり、大いに感服する内容です。

====TKK 会員 小川恵一郎

## ○下記リンクは、皆さまにとって何らかの参考になればとご案内いたします。(玉木和彦)

・内閣府 第 73 回 障害者政策委員会 議事次第

資料5と6は今後、特に参考になるかもしれません。

[https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/seisaku\\_iinkai/k\\_73/index.html?fbclid=IwAR1z\\_XI1VN8XMOIwJpB1dyjR4J-JyyeVTgkg3UuwFjzPvzhqHc7UQGdIT4Y](https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/seisaku_iinkai/k_73/index.html?fbclid=IwAR1z_XI1VN8XMOIwJpB1dyjR4J-JyyeVTgkg3UuwFjzPvzhqHc7UQGdIT4Y)



○国立障害者リハビリテーションセンター 障害工学研究部 電子応用機器研究室室長 中山剛氏から。2 件、ご参考まで。

・発達障害に関してのエコモ財団からの情報です。

エコモ財団では、今年度、発達障害のある方を対象とした飛行機を利用したツアーを企画し、事前搭乗体験会を経て、10月に山形ツアーを「発達障害＋バリアフリー＋JAL」で実施いたしました。

下記をクリックしてご覧ください。

<https://press.jal.co.jp/ja/release/202208/006846.html>

・2007年に記憶サポート帳を作成された 言語聴覚士 安田 清氏からの情報です。

2月に「Zoom もの忘れ対処塾」という講習会を行います(京都府立医科大学附属認知症疾患医療センターと共催)。

お申し込み等詳しくは下記から

[On Line もの忘れ認知症;皆で語ろう - gensoshi ページ! \(jimdofree.com\)](#)

・東京都への予算要望書

令和4年8月16日

東京都知事  
小池 百合子 殿

特定非営利活動法人東京高次脳機能障害協議会(TKK)

理事長 今井 雅子 印

### 緊急及び予算要望書

東京都の高次脳機能障害支援に関しては、コロナ禍であっても高次脳機能障害支援普及事業並びに、専門的リハビリテーションの充実事業はじめ、区市町村高次脳機能障害者支援促進事業などを推進していただいております。感謝申し上げます。

特に「在宅要介護者の受入体制整備事業」はコロナに感染した家族が安心して療養できる仕組みとして高く評価しています。また「PCR等検査の無料化事業」は、ショートステイ利用のたびに高額なPCR検査をしなければならなかった者にとっては、大きな救いとなっています。新型コロナウイルスの感染は、先行きの見えない状態の中、引き続きご支援いただきたいと思います。

加えての猛暑や記録的な大雨などの異常気象が続き、環境の変化への対応が難しい障害である高次脳機能障害者たちにとっては、戸惑いや不安が増強し、外出の自粛や体調不良によって多くの方の機能低下などが表れてきています。家族会や当事者会の懇談会等の開催も、通年のような頻度では開催できず、ましてZOOMミーティングのようなオンラインの開催にはアクセスすらも難しい状況です。

私たち高次脳機能障害者や家族が少しでも安心して生活が出来るよう、今年度も本年度(令和4年度)施策に対する緊急要望、及び次年度(令和5年度)予算に対する要望をいたします。

1. 都道府県の必須事業である「失語症者向け意思疎通支援者養成事業」における養成者が、すぐに実践し活躍できる場を創る仕組みの再検討をして頂きたい。

【要望理由】

平成30年度(2018年度)から東京都は「失語症者向け意思疎通支援者養成講習会」を実施しているが、「失語症者向け意思疎通支援事業」として養成者が活動できる事業を実施している自治体は、今現在、世田谷区、豊島区と多摩市だけとなっている。また「意思疎通支援モデル事業」として、聖路加臨床学術センター(中央区)と日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック(小金井市)の2カ所で「失語症サロン」を開催している。多くの人口を抱えている東京都で、実施の自治体が3カ所とはいかかなものか。

また実施している世田谷区でさえ、「事業の浸透が届きにくく、計画より下回った」との昨年度の実績報告があった。失語症のある方々は、自分の意見や気持ちを伝えるべく、事業内容を知ること、申請手続きにも支援が必要である。この事業を発展させていく工夫がもっと必要だと考えている。

また資格者にとっては、すぐに実践しなければ意味がない上、取得した技術も忘れてしまい、意識も薄れてしまう可能性がある。フォローアップ講座を継続すること、派遣されている支援者が自分の経験を皆と共有できる情報交換の場が必要であり、常に意識を持てるような仕組みが必須である。

例えば、手話通訳者の派遣事業のように、自治体ごとではなく、都内に何ヶ所かの総合的な派遣事業所(都及び自治体職員、意思疎通支援資格者、退職ST、家族、患者等)を作る。そして派遣の仕組み、費用、などの東京都として統一性を持つことを提案する。

支援者養成だけでなく、その後の事業展開を実のある事業として、東京都としての仕組みづくり、さらに各自治体ができるように早急な対応と指導及び援助を切望する。

2. 家族介護者の高齢化にともなうサポート体制の充実を協働したい。

【要望理由】家族介護の問題として、最近「ヤングケアラー」が話題になっており、各地で法整備が進められ、多少なりとも若い世代のサポート体制が進められている。

一方で高齢化が進む中、「高齢化した家族介護者」の不安と困惑も顕在化している。高次脳機能障害当事者を抱えた家族介護者も、長年介護している方が多く、自身の高齢化による在宅でのサポートレベルの低下により、制度や地域活動などに協力を求めたいと思っている。

また、高齢化した家族介護者の一番の懸案事項は「介護者なき後」である。「親なき後」、「配偶者なき後」に当事者はどうなるのか。どこの家族会でも大きな不安を抱え、このことは長年訴え続けている問題である。

高齢化した家族介護者をサポートしていただくためにも、そういう家族介護者へのフォロー、「介護者なき後」を含めた当事者サポートなどを、横ぐしでサポートする「制度」「人員・組織体制」について検討して頂きたい。

当然、TKKとしても情報発信や情報共有を行い、行政に丸投げするのではなく、私たちとの協力・連携体制を

強化しながら、地域包括ケアシステムおよび地域共生社会の実現に向けてサポート体制の充実のための協働を希望する。

### 3. 実態調査の必要性について

#### 【要望理由】

東京都の高次脳機能障害者の実態調査は、平成19年(2007年)に行っている。現在でも、高次脳機能障害者の実態を説明するときには、私たちもこの時のデータを使っている。15年を経てその間に支援普及事業が広がりを見せ、社会状況も大きく変わってきており、そろそろ新しいデータが必要になってきていると感じている。現在の実態を東京都が把握することで、更なる仕組みへのヒント、制度の改善、方向性の確認など今後の施策の指針になる点が見えてくると思う。

実施にあっては大変な労力や予算が必要と思うが、是非実態調査の実施をお願いしたい。

以上